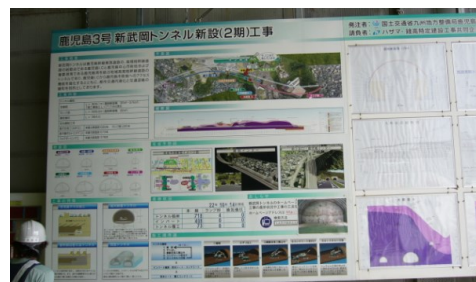


現場研修会

新武岡トンネル作業所

元 請	発注者:国土交通省九州地方整備局、施工者:ハザマ・銭高組JV
概 要	本線部延長が111.5m(掘削断面積95~378㎡)、ランプ部延長が692.5m(同88㎡)、換気横坑延長が364m(同30㎡)
工 期	平成22年3月~平成24年12月



平成22年10月14日~15日に、鹿児島市内の「鹿児島3号新武岡トンネル新設(2期)工事」(発注者:国土交通省九州地方整備局、施工者:ハザマ・銭高組JV)の現場で行われました。総勢54名(33社)の方々にご参加頂きました。

新武岡トンネル作業所の倉富日出雄所長らから工事の特徴や施工方法の説明を受けた後、施工現場を見学しました。新武岡トンネルは、高規格幹線道路の結節点である鹿児島I.Cと鹿児島中心市街地及び鹿児島港を結ぶ地域高規格道路(鹿児島東西道路約6km)の主要構造物として計画された延長約1.5kmの山岳トンネルです。

本工事の特徴

- ① 軟弱で崩落性の高いシラス台地の下を山岳工法で掘削する都市NATMである。
- ② 本線・ランプ・換気横坑・ポンプ室立坑と、トンネル構造が複雑多岐に亘る。
- ③ 本線・ランプ部の分岐部は4車線で、分岐手前の掘削断面積が約380㎡となっており、道路トンネルとして国内最大級の超大断面である。
- ④ 坑口から250mまでは低土被り区間(高さ5~17m)であり、民家や市道の直下をトンネルが通過している。地表からの注入工法、坑内のAGF、FIT工法、ウェルポイントの施工。
- ⑤ シラス(掘削土)の一部を吹付コンクリートの骨材として使用していることも注目される点である。



見学会終了後、専門工事業の拓進建設(株)武岡作業所の金古弘副所長から工事内容などについて説明を頂き、続いて参加者からの質疑応答を中心とした研修会が開催されました。

野崎会長より:「非常に難易度の高い工事を元請と専門工事業者が一体となって施工に当たっており、この点が強く印象に残った。安全管理が重視されていることもあり、当現場では特殊な工法や工夫がなされている。この研修会で多くの意見を出してもらい、水平展開してレベルアップしていきたい。」との挨拶がありました。

ハザマ、銭高組JV、新武岡トンネル作業所・拓進建設(株)武岡作業所の皆様、ご協力ありがとうございました。

